

## 第 2 1 回気仙沼市震災復興推進会議について(開催報告)

標記会議について、次のとおり開催しましたので、報告します。

### 1 開催日時等

- (1) 日 時：平成 30 年 3 月 27 日(火) 午後 2 時～午後 4 時
- (2) 場 所：ワン・テン庁舎 大ホール
- (3) 出席委員：31 人(代理出席を含む), 欠席 11 人

### 2 議事内容

- ・ 復旧・復興事業の進捗状況について

### 3 主な質疑等

- ・ 再生可能エネルギーの導入支援・促進事業のうち、太陽光発電導入促進事業において、個人住宅に対する補助の対象が平成 28 年度から新築のみとなった。その経緯について伺う。  
⇒ 太陽光発電設備設置については、平成 24 年度から 27 年度まで一般財源を基に一般家庭を対象に補助金を交付してきたが、補助申請が多く、一方で設置費用が低廉化してきたため、平成 28 年度から対象を、「半壊」以上の判定を受けた被災者のみに限定し、財源として復興基金を充てている。
- ・ 例えば、現在 10 万円の補助限度額を抑えて、より多くの方が利用できる制度にしても良いのではないか。  
⇒ 気仙沼斎場の控室(3 室)について、高齢者等への配慮から改修を検討している。例えば、小上がりの畳にカーペットを敷き、椅子とテーブルを配置する。また、小上がりの段差解消に向け、踏み台を置くなどの方法を検討しているが、このことについてのご意見を伺いたい。
- ・ 他の市町村の新しい斎場では、出入りが容易で、かつ、食事がしやすいよう、椅子とテーブルにしているところが多い。ただし、履物を脱いでスリッパで控え室に上がるとなると、円滑な出入りができないのではないかと。  
・ 災害公営住宅等に移り住んだ高齢者の中には、地域との交流機会が全くない方もいると聞く。昨今、人生 100 年時代と言われ、健康寿命も長くなっている。高齢者や被災者が充実した生活を送れるよう、高齢者の見守りや被災者の健康づくりに対し、本格的な取組が必要である。  
⇒ 本市としても非常に重要な視点と捉えている。高齢者の見守りとして、引きこもり防止等のため、生活援助員(LSA)の巡回訪問を行っている。加えて、近隣との交流や健康づくりとして、一部の災害公営住宅では、交流サロンを開催している。今後も、行政のみならず、医療・介護・福祉機関と連携し、さらに取組を広げていきたい。
- ・ 面瀬中学校の応急仮設住宅の解体・撤去完了時期について伺う。  
⇒ 降雪等の影響から、2 月の東日本大震災調査特別委員会時点の報告から完了時期が遅れており、4 月完了を見込んでいる。県を通じて施工業者と協議を進め、具体的には、4 月 20 日前後と聞いている。また、学校の要望を受け、入学式と始業式がある 4 月 9 日から、校庭の一部を利用できるよう、県等と調整を進めている。

- ・ 移動図書館はいつ頃から再開するか。  
⇒ 5月のゴールデンウィーク明け頃の再開を予定している。
  
- ・ 男女共同参画の主な指標に「家庭や職場で男女が平等になっていると思う人の割合」があるが、中学3年生に同様の調査をすると、約87%が「男女平等である」と答える。世代によって意識に差があるため、目標は33%以上となっているが、より高い数値を目指し取り組んでいただきたい。  
⇒ 「第2次気仙沼市男女共同参画基本計画」の策定にあたり、移住者等の若い世代に意見を聞いたことがあり、男女平等は当然のことで、意識して生活することではないようだ。男女平等を意識しない時代も遠くないと思うが、目標値を意識し、より高い数値を目指して取り組んでいく。
  
- ・ 教育環境の充実について、小中学校の統合は地元の意見や歴史等から簡単には進まないと考え。地元の意見を尊重していただきたい。  
⇒ 教育環境の整備については、義務教育環境整備計画に基づき、現在は、複式学級解消のため地域懇談会を重ねているところである。進め方については、委員御指摘のとおり、地域の方々の実情や思いを十分に受け止め、また、子どもたちの教育環境がどうあるべきか丁寧に説明を重ね、時間をかけて進める所存である。
  
- ・ 震災から7年が経過したが、震災はいつ起こるかわからない。避難所の備蓄と耐震の状況について伺う。  
⇒ 水やアルファ米等の非常食については、主要な避難所に計画的に備蓄を進め、賞味期限が近づいたものは逐次更新している。また、避難所の耐震について、本市の指定避難所は90箇所以上あり、中には古い建物もある。今後、復興事業で完成したコミュニティセンター等の活用を含め、避難所のあり方の検討を進めたい。
  
- ・ 市立病院に、待ち時間に子どもたちが遊べるスペースを設けて欲しい。

#### 4 閉 会